

俳諧十二律
夏



素心 鳳翔一具一瓢惠
洞天 可布 日人 確嶺

俳諧十二律

久藏 茶靜 八朵 史千

俳諧十二律

四月の節

拾しり々々ぬき初丁 衣更 若葉 新妙 事ニ處ニ

桑樹 卯う好こふ 松まつ魚うし 郭くわく公こう 佛ぶつ寺じ 濯しやく伸しん 花はな等ら 牡丹ぼたん 五丁

橘たち芥かい子こ 杜と若わ 茨あざ葵あひ 笋たけのこ 桐きり花はな 苔こけ花はな 云い本ほん立た 茂さかりハ八はち丁

下した零れい 麦こむぎ秋あき 云い外ほか 初はつ丁てい 扇あふぎ 不ふ解かい 十じゅう丁

蚊か蠅ぶん 十三丁 蚤しん 鳴なき 蚤しん 十三丁 けけ子こ 老ろう 男おとこ 十じゅう四し丁

采さい子し鳥とり 十五丁 静しず 夏なつ 簾すだり 築つく 广ひろ 舍や 糸いと 十じゅう六ろく丁

五月の節

皋こう月げつ 昌しょう蒲ぼ 十七丁 粽ちまき 懺ざん 惟ただ子こ 十八丁 田い植ち 牛うし 極ごく 十九丁 云い々々 十じゅう丁

合あ親い ぬぬふ 茹茹子こ 百ひゃく 舍や 廿丁 瞿こ麦ま 栗くりののむ 藤ふじ 云い々々 十じゅう二に丁



麻の子 照対 お枝をみぢ サニ 浮巢 蟬々月害 サニ
さ月兩 サ四

六月の歌

六月水方 夏月 サニ 青花 夏川 サニ 井浜 サニ
暑 サニ 土用 夏 サニ 夕立 蓮糸 夏野 サニ
いゝ顔 夕魚 青田 サニ 川 火取虫 夏夜 鮎 沖鈴 夏 サニ
納涼 涼 サニ 草 葛 心太 出来 サニ 雲峯
不二指 芳の輪 法枝 サニ

俳諧十二律

夏四月部

四月

下りの帆 そめりとえゆ サニ 月哉 風朗
庭をけ 樹々 木へ 花 サニ 月 サニ 三布
ぬく サニ 枝 サニ 雨 サニ 月 サニ 日人
身 サニ 花 サニ 月 サニ 未 サニ 小 サニ 世 サニ 史千

拾 ちぬき

ちろろろろろ拾ろろろろ

素心

細虫はまはるしとちろろろ拾

洞大

ろろろろろあちろろろろろ

望郎

棘れとぬか町人の拾ろろ

ハ奈

生ろろろ拾ろろろろろろろ

史子

ちろろろろろろろろろろ

ハ奈

更衣

あろろろろろろろろろろ

鳳朗

文仲ろろろろろろろろろろ

雄令

なろろろろろろろろろろ

茶静

古ろろろろろろろろろろ

日人

えろろろろろろろろろろ

久藏

若葉村樹

若れろろろろろろろろろろ

素心

おとろふお寐つれなうらな 史千

若紫く下よおつや裸る 河天

来て掃く新櫓の中お櫓の上 茶静

き 簾

河えろや新押はてきすれ 史子

ぬらふておれもはよあを簾 日人

きん 簾もきききてあうなり

きんをえろききすれ 河天

紫 櫓

きん櫓やききて来ふ料即船 一 蕙

きんくや日わくくもも 一 具

紫櫓のほれらあよおきく 茶静

おの 花

おのきやちくちきぬえお 史子

うねきやきしてわく一ト休 一 蕙

おの花よメリつやう川役お 河天

杧魚

看屋うももつぬ杧魚

う布

子方解な提やうをす杧魚

風郎

夜刀如血をえせ杧魚

素花

時鳥

きやうまよわねをほき

茶静

おきまて聞やうをす

う布

聞自慢やうをす

、

一茶よまをさしほき

風郎

郭らきぬとさう人かま

一色

時きやうあはれや小ほき

洞天

しめわねてかう後をう郭

日人

ほききききききききき

素花

雲かねや一ききききき

一茶

ききききききききき

洞天

時おきかききききき

雄令

抄 寫 佛 經 卷 之 一

茶 抄

部 之 佛 經 卷 之 二

二 抄

部 之 佛 經 卷 之 三

三 抄

部 之 佛 經 卷 之 四

四 抄

部 之 佛 經 卷 之 五

五 抄

部 之 佛 經 卷 之 六

六 抄

部 之 佛 經 卷 之 七

七 抄

部 之 佛 經 卷 之 八

八 抄

部 之 佛 經 卷 之 九

九 抄

部 之 佛 經 卷 之 十

部 之 佛 經 卷 之 十一

十 抄

部 之 佛 經 卷 之 十二

十一 抄

部 之 佛 經 卷 之 十三

十二 抄

佛 主 會 薩 佛

花 德 堂

部 之 佛 經 卷 之 十四

十三 抄

落佛や汐の押さる小松原

茶静

花未堂佛くもくもなるやあり

う布

牡丹

ふくくと新乳うひぼんま

ハ奈

ちか牡丹まひてきぬまゐの肉

素衣

きくもま実をむすく牡丹

う布

あゝよきて四五日かぬほんま

洞玉

故の鳴くひいらさき牡丹

風歌

橘

橘のうつや残臭れは歩り

史子

いそふもて秋ふぬらうり

茶静

香を端やも橘の香は毒

鳳朗

芥子

きくもふねと風けう袖のうち

洞天

迷惑さうけふあしき

風歌

おちちるいふまゝ 枕え 素心

笑はるゝ実をいふわづの糸 ち布

大軍と云ふてまつらん

まされくはけくさうさ

まゝおちちるいふまゝ

おちちるいふまゝはの糸 茶静

お月のおの月一おちちる 八奈

世連て自心おちちるの糸 史千

杜若

おちちるいふまゝはの糸 日人

おちちるいふまゝはの糸 雄令

おちちるいふまゝはの糸 一色

おちちるいふまゝはの糸 久蔵

おちちるいふまゝはの糸 史子

杜若咲てまつらん 例も 咲 日人

取次の折まつらん 杜若 素心

荻 葵

田へあきとよして荻や葵のし 一

ふらむお日除なやま葵 二

鶯のねて埒うをうけ葵のし 三

竹のし 葵のし 四

竹のし 葵のし 五

竹のし 葵のし 六

竹のし 葵のし 七

桐 花

花のし 葵のし 八

花のし 葵のし 九

苔の花

苔の花のし 葵のし 十

苔の花のし 葵のし 十一

苔の花のし 葵のし 十二

苔の花のし 葵のし 十三

夏木立

いづつとを志きうきうなるもと
久臧
きとみふもまふや梅のるふと
史子
村々れえときとたつあそ
一々

茂り

特^モのすねてうきは茂りうね
旧天
きれおな一本は啼きけうき
雉令
ささるかきうきも茂りうね
素志

下害

下害^ミれあきうらあきうきうき
久臧
馬士は起さるうき一本下害
一々
下害へさる板提うき入う
風朗

変秋

浪^ミりうき^ミ宿^ミうき^ミ麦^ミ秋
風朗
麦刈や桑りえはゆくい仕
ハ奈
麦折や井戸の向ふれむき
、

みーうね

うーねのきねううつふにめい
うーねやわーいづきい人もねを
うーねを吹てとる者う郡
うーねのきーいもねのきうい
ね吹てねうーねのねれ中
うーねやうーねのきねうい
寺やねのうーねもあふー
一色

扇

うーねのきねううつふにめい
うーねやわーいづきい人もねを
うーねを吹てとる者う郡
うーねのきーいもねのきうい
ね吹てねうーねのねれ中
うーねやうーねのきねうい
寺やねのうーねもあふー
一色

茶廊

余がくもくくくく人の来る来り

洞天

池の小拳をきてうらばうま

素心

常のりかててててて茶廊れ

史千

俗又遊ひく

柄の虫記本金町節の茶廊る

茶静

麻と人よ云歌してかく茶廊

素心

蚊屋

入よりれさうとて茶廊

ハ茶

改金の月菴に低くもなう

唯令

瞿妻れ入てけうくう茶廊

茶静

改金の月終忌を茶廊る

曰人

いり約てあて改金く茶廊

史子

瞬つてさ山ツキ枕のいり茶廊

茶静

茶帳

我性も約くさる茶廊

ろ布

福々あゝあゝそそてと家帳さ

ハ 奈

蚊を火

松山は焚きてはく蚊をうれ

風朗

橋てえゝあつゝ蚊のなやれ

史子

原寺

れむきて跡なき原の蚊をう

素志

うらゑて焚ういゝも蚊をう

ハ 奈

蚊の併ても蚊をぬ蚊をう

ろ 布

蚊

蚊は起て焚く蚊の寐をう

茶 静

蚊くやえゝまうせゝ蚊のゆく

回 天

一匹へて四つと五つと啼蚊をう

ろ 布

横顔はすれり蚊の蚊をう

久 藏

蚊のうゝ蚊の川越ゝ蚊をう

史 子

蚊のうゝも蚊の蚊をう

回 天

蚊の蚊やれ蚊色む蚊をう

茶 静

おぼてー奴のちいさくあつた
久蔵
薄ぼりのあつた
史子
菴の雨は欠いていふ奴は
素心

蠅

一はちけつをぬる雨の蠅
久蔵
蠅去もよ小唄一つは
茶静
蠅おの鼻の先なる一埃り
同天
蠅をおのけちいさきふ
素心

蚤

蚤はおぬ手拭くはて取柄の
茶静
おつや蚤めけおや
素心
お飯を仕込ておや
同天
蚤はつかうい形うは
史子

蝸牛

斧入るおは
素心
かゝ角をすばれてぬの
久蔵

晴天や露根くく後々 蛇子 一々
蛇子 太刀くく世後もなき安 日人

螢

ふれ後て螢嘆きよ毎の飯 ハ 朶
ほくく遠く子の泣き声に 洞 天
山あやそぬ 螢の光うき 風 調
れつちすく 螢の光に 素 心
うんとおてお解きて 螢の光 日 人

ほくく遠く子の泣き声に 難 令
飛 螢 人 懼 けてもなきを 史 子
瀬 田 越 えて 螢 へ 越 へ 螢 の 風 調

行く子

跡々泣き又来る人の行く子 風 朗
きくく 螢 の 光 にも 史 子
熊谷の堤も越えぬ 難 令
二毛 螢 の 光 にも 一 々

先寫

うゝいその付子もむと志似はる

ろ布

夢の如き啼先のは〜んう郡

史子

夢の如き

夢の如きやまゐる雨舎り

素心

夢の如きとてはうらうらと

史千

雨古鳥

夢の如き啼を安け林うな

雅令

夢の如き一日啼やかんと

素心

三日月如方へうせう夢の如き

洞天

良けつて夢の如きぞいづらん

茶都

夢七日牡丹花やかんと

日人

親ら子よかれて啼う雨の如き

雅令

夢の如き夢の人を笑ふ中口

一蕙

夢の如きう嵐とありぬ夢の如き

洞天

夢の如きとありぬ夢の如き

史千

葉内表れゆい先うられ不右る 風朗

まはあそめくほと近一閑なと 日人

むううう小さいとやかんこる 八采

不右る本かれなうよ善とさけ 風朗

大うなるちられもめんこる 史子

擲

かきとちとあつてえいさかち勝い 八采

秋ちとて 本右るの勝の舞り 茶勝

勝川えれちかくとす本の花し 洞天

山は月洞^{ウツ}うてぬ 勝うは哉 史子

勝をいやえいされあゝ並いやう 久藏

勝をいの眼ぬう津一煙う越 素衣

いさみえちの底や勝^{シヤウヤウ}道遠 一色

またうらうと舞んで覚る勝め大い 風朗

勝も船も煙りもつてこまう 素衣

夏 公龜

夏 公龜や世帯なれ一笑い

史子

夏 公龜りや大おはる壁の穴

ろ布

筑 广舎 空り

見ておちのりなき筑 广 空りし

久 臧

おちかき空りのまけあやうれ

ろ 布

おちかき空りのまけあやうれ

久 臧

おちかき空りのまけあやうれ

久 臧

五月 部

皋 月

原 山本の底は水澄み 皋月哉

鳳 朗

云 雲ふもえゆる月 此星うし

雄 令

氏 士 此星うし 此星うし

久 臧

曹 蒲

人 なみ 曹 蒲 此星うし 此星うし

可 布

雪の下に雪うら

ま研うらうらうらうら

昔蒲湯やうらうらうらうら

茶野

昔うらうらうらうらうら

唯今

昔蒲湯やうらうらうらうら

一具

あやうらうらうらうらうら

風朗

うらうらうらうらうらうら

同天

昔うらうらうらうらうら

素心

粽

結うらうらうらうらうら

一色

昔うらうらうらうらうら

白人

結うらうらうらうらうら

ろ布

粽も功未うらうら料理人

仰天

喰うらうらうらうらうら

史子

粽結うらうらうらうらうら

素心

昔うらうらうらうらうら

風朗

職

妹忘れく腹とけり哉
 日人
 泥足もぬくさるる哉
 一色
 既くさるれり哉
 洞天
 押さるれり哉
 風朗

帷子

かきしや謙倉にけり哉
 ハ奈
 うしけれ本の同えり
 茶静

田植

田を植く凡の戸にと来あり
 風朗
 厂よなみふるまき田うき
 日人
 思ふか田を植てあふ山
 ハ奈
 柿と田に水の中
 茶静
 田植えの傘下やさう
 洞天
 多しや植く返く田は
 久藏

草花集よりけておや田植は 碓氷

流と来る余のよ苗も植は 来心

詠あやみくらとやゆく田植は 史子

二三といさともえんほ寸イクリ辨は 風朗

竹植

竹うえてはは砕きおつ板 史千

晴天は植はる竹の葉うな 万布

植はる口はむとる竹は葉うな 雪歌

今年竹

里川や多竹中わく竹 八条

合歌

合歌の新葉仕立は 風朗

合歌のやうにむねをいふ 久藏

お花

お花や合歌はさうおのえなう 日人

お花の葉うえをいふ 万布

茄子

む咲をなりて茄子おそろしきや

久藏

籠の目をやぬそわうそ初茄子

素志

百合花

赤百合や口づいてみち里の犬

ハ桑

雨多めの池走よるや萩の百合

洞天

百合咲や山崎志きぬ枕もや

雄令

嬰佳変

なてーこや振りく度る小傘

史子

なてーこやすかきぬきよ宿^{ツボ}しきり

一色

栗の花

山伏の家まききりー栗のて郎

一蓮

茶ももえり咲ありお木お花

小くみや咲てら落るお木のふ

洞天

米櫃めうらもあきりや栗のむ

一色

藤の花

ふみきのきけく^きる^りや三上^{さんじやう}の
も^もち^ちや^や我^{われ}衣^ええ^えも^も路^ろく^く一^{いつ}日^{にち}人^{ひと}

藤

藤^{ふじ}も^もさ^さは^は藤^{ふじ}は^はく^く日^{にち}か^かず^ずう^うな^な 久^{きう}藏^{ざう}
垣^{かき}う^うへ^へ存^{ぞん}あ^あす^す取^とる^るう^う即^{すなはち} 日^{にち}人^{ひと}
障^{しょう}の^の中^{ちゆう}か^かづ^ず傍^{ぼう}く^くや^や船^{ふね}の^の雲^{ぐも} 茶^{ちや}靜^{じやう}
藤^{ふじ}や^やた^た衣^えへ^へも^もく^くき^きて^て何^{なん}通^{とう}す 風^{ふう}朗^{らう}

藤の子

藤^{ふじ}の^の子^こや^やま^まさ^さも^もち^ちと^と宮^{みやう}う^う淋^{しみ}し 八^{はち}束^{そく}
も^もく^くめ^めも^もち^ち雪^{ゆき}は^はあ^ある^る藤^{ふじ}の^の子^こは^は 茶^{ちや}靜^{じやう}
盆^{ぼん}あ^あて^てく^くあ^あふ^ふる^るの^のほ^ほ藤^{ふじ}の^の子^こは^は 一^{いつ}束^{そく}
赤^{せき}身^みの^の辰^{ちん}目^めあ^あは^はも^もち^ち藤^{ふじ}の^の子^こは^は 糸^{いと}衣^え

照射

さ^さら^らに^にあ^あら^らう^うて^てを^をか^か照^{しやう}射^{しゃ}の^の 一^{いつ}束^{そく}
子^こも^もつ^つい^いて^て山^{さん}の^の深^{ふか}い^いぬ^ぬも^もち^ちが^がま 八^{はち}束^{そく}

お後鳥

温泉の山へ行きてお後鳥

茶静

おぬきもるるお後越えよう

久藏

水鶏

船中よくお磯崎の啼き鶏

素忠

おとといさせておのり鶏

う布

啼きおありこて後水鶏

雄令

お市わけてお鶏をよおすお鶏

史子

お浮巢

親鳥おちやうの浮巢

風朗

おいふもほろおえては巢

ハ朵

やて来ておけす底の浮巢

史子

本坊へ通すおけうの巢

ろ布

蝉

夏の蝉おんぞくと啼き

久藏

桐の木や雨の流る様のお

素忠

初蟬や格をさつて蟬一計 風朗
蟬の奏人の夕顔も来より 一色
蟬啼や瀬下村を打鳴て 茶新

五月書

下京や一梅つば月やみ 一蕙
簾よりてかくてあるや月若 風朗

五月雨

雪解と果を利根の五月雨 素心

さ日の雨成上戸つる水より 布
さ日雨やと味縁やと月夜より 八束
さ日雨やと味縁やと月夜より 史子
さ日雨やと味縁やと月夜より 一蕙
さ日雨やと味縁やと月夜より 天
さ日雨やと味縁やと月夜より 素心

あゝ院内は舎りて

けりし胡广をさるる五月雨 史子

六月のや草のわづらふて夏のうら 久蔵

おのゝ菴け稲あやさなほ光 一蕙

を月ふやふうやう水あき 唯令

さみふの海うえややみけうへ 史子

六月部

六月 あき月

六月や夕飯さけ一肌晴 八奈

六月の川子跡を流さきり 久蔵

星一ツちやあき月け芒吹 一具

夏の月

重あやるけ重あきあき月 一蕙

交け月傳の巻へ入ふけ

茶静

芳あけきてふむ本信や交月

一蕙

柿押は信かきし心や交月

洞天

船口より竹續き彩る交月

一色

風蕙

海より一ふ所やうき蕙

一具

手桶より月とうけり風蕙

洞天

船よりやあり雲より風蕙

一蕙

風蕙

道より終ふにぬき風蕙

茶静

舟より雲語をえたり風蕙

風朗

鷗のふけかうけたり風蕙

茶静

押へて雲より雲より風蕙

風朗

川信よりふきて交やまあり

唯令

交月

交月やめし樵あり岩の向

茶静

巾一井

日たさそとらし井たきおる

久臧

さし井一登らさうけ佛の目

一煮

清水

池越え清あまぬき一羽

素花

瓶よふあをきせぬ清あふ

ハ奈

る水たきてもまぬ清あふ

史子

一里の水よまきれぬ清あふ

准令

浦口へ住おとさぬ清あふ

う布

うそつぬ人の墓らう清あ

一々

暑

水底に暑さを見ゆ小舟哉

准令

海の水れぬれを暑記戸に

一煮

暑捨るそりたあつたな

風朗

葉萱れちうに暑く根被

一々

むつかし暑をくうゆま

史子

唐ぬけは累や浅間の石ほろり 茶珍

物ねえ累ねえおとんさうきり 八采

着て又かちね累や人お中 久臈

累き口はも口上れ見おる 素志

土用夏

おつれて古用は入や空の神 洞天

来るるを通す事即ち谷中門 雄令

かくれなきな人ありむらもの う布

あまのうさぎ

ふ雨は素もううやくて候きち 洞天

ゆきや唐崎らとやねおる う布

夕いちはあつうとさるもの古 一蕙

夕まや口さうくふき親り原 一冬

蓮の花

葉は香をけそいて来るや叶いれ 久臈

まなふ蓮は蒼や稲光り 史子

ちのちのえつてしるや蓮のふ 雉令
 鹿のく地啼きう蓮のふ 一々
 人のあまうくく蓮のむ 八采
 福挽くあまうくく蓮のふ 史子
 足代と蓮のふあり角樽 一々

五野

赤いふれ咲て似つぬる野哉 雉令
 秋ふれせれと越さぬる世に う布

ちのちのえつてしるや蓮のふ 風朗
 鹿のく地啼きう蓮のふ 八采
 人のあまうくく蓮のむ 八采
 福挽くあまうくく蓮のふ 史子
 足代と蓮のふあり角樽 一々

夕魚

ちのちのえつてしるや蓮のふ 一々

久蔵
少教のうさやうさく梓

ハ奈
ゆふや蟹きつてかき島の妻

青田

一
洛外お町は廻入き田

小石川

風
凡となつていまい戸へ入き田

難令
切破風は住うえきき田

川狩

久蔵
川狩やあつたきき田の人

史子
川狩や人のきき田をえてけう

火取虫

風朗
やう虫取あううてあうう

う布
火取虫あううてあうう

洞天
恙なくは即ち海すやをえ

風朗
言うてあ油はきき田

夏 疲 汗

夏 疲 や 困 る 川 石 傳 じ 茶 靜
つ ら そ け 不 眠 居 る や 良 の 汗 史 子

鮎 沖 贈

鮎

そ 山 崎 い て 一 羽 志 せ し 伸 勢 久 臧
む ら せ け 命 入 る し 神 の 鮎 一 蕙
い ら づ け る 鮎 古 寺 羅 を 尋 ぐ 久 臧

納 涼

橋 涼 の 衣 紋 垂 し け せ れ 幸 一 色
船 う れ す み 亜 し や 土 車 出 る 史 子
扇 つ く 古 衣 せ せ せ せ せ せ 久 臧
夜 涼 じ や ゆ せ せ 小 橋 又 一 潑 き 何 天
茶 豆 を つ ら み な 度 々 す み 助 素 衣
隣 へ け 船 ぞ う 遠 く 涼 じ か 日 人
も 亜 し て 来 て 枕 ぐ す み 哉 風 朗

涼

涼	涼	涼	涼	涼	涼	涼
一	一	一	一	一	一	一
茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶
茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶

簞

僧	僧	僧	僧	僧	僧	僧
一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一

葛水心太

玄来凡

葛	葛	葛	葛	葛	葛	葛
一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一

雪の山峯

ぬきわく芦を根うしてやせれ峰 系志
雪のまかりやと食うてまゝより 旧天
泣うて歩けり日かなし雪の峰 史子

不二詣

正月の爰れけうやふ二詣 一々
小田原は醫者の爰れよふ二詣 一恙
うれゝやえて後うやふ二度り ハ奈

茅の痛

う町の茅の痛大さくち米より 一々
ひきら芦はかへせてうふちのわら 日人
僕う人々うらけ仕ゑる茅のわら 史子
かゝるゝ誰れのぬきれ痛哉 ハ奈

草の御校

居きゝをけりゝみる記る ハ奈

うーん人の立派さを知り 風朗

草の穂をむきくちり枝うれ 史子

清枝ーてやまうの川原 久藏



うーん人の立派さを知り 風朗
草の穂をむきくちり枝うれ 史子
清枝ーてやまうの川原 久藏
うーん人の立派さを知り 風朗
草の穂をむきくちり枝うれ 史子
清枝ーてやまうの川原 久藏

今禁六郎兵衛

